

2024 年度 評価結果報告書



調布市立多摩川児童館学童クラブ

(学童クラブ)

## 株式会社日本生活介護

### 評価推進機構への報告

1. 福祉サービス第三者評価結果報告書
2. 事業プロフィール
3. 利用者調査 . . . . . p1~3
4. 組織マネジメント . . . . . p5~13
5. サービス分析 . . . . . p15~24
6. 事業者が特に力を入れている取り組み . . . . . p25
7. 全体の評価講評 . . . . . p26

## 第一章 評価推進機構への報告



1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)基本的な生活習慣を身につけ、自分で考え行動する 2)集団生活の中で社会性を身につける 3)育成を通して様々なことを感じ、考え、それを自己表現する 4)安全・安心な学童クラブ運営 5)施設間の連携 6)中期経営計画の取り組み推進</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりを大切に、安全・安心・快適に過ごすことができるよう、常に改善の意識を持ち、利用者から選ばれる施設運営を目指します。「利用者から選ばれる」東京かたばみ会</li> <li>・働く人一人ひとりが心に余裕をもち、働きやすい職場となるよう業務改善を進め、仲間を大切にする法人運営を目指します。「みんなが助け合う」東京かたばみ会</li> <li>・働く人一人ひとりの力を伸ばし、挑戦意欲を発揮できる職場となるよう、人材の育成・定着を図ります。「みんなが助け合う」東京かたばみ会</li> <li>・やがて土から芽を出し、きれいな花が咲くように、この5年間でしっかりと経営基盤の基礎を固め、持続可能な法人経営を目指します。「しっかり根を張る」東京かたばみ会</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の目線で考え実践できる職員になる。</li> <li>・確かな時代認識の上にならって新たな課題に道筋をつけ、責任を持って実行できる職員になる。</li> <li>・既存の習慣にとらわれることなく常に幅広い視点から柔軟に改革できる職員になる。</li> <li>・福祉の心を念頭にコスト意識をもって行動できる職員になる。</li> </ul>

調査対象

登録児童全員とその保護者を対象とした。

調査方法

学童クラブからアンケート用紙を配布し、記入後は返信用封筒に入れ、直接評価機関へ返送していただくか、学童クラブに設置した回収BOXに投函し、学童クラブからまとめて評価機関へ返送していただくこととした。

利用者総数

90

共通評価項目による調査対象者数

90

0

90

共通評価項目による調査の有効回答者数

40

0

40

利用者総数に対する回答者割合(%)

44.4

0.0

44.4

## 利用者調査全体のコメント

調査対象者90名のうち、40名から回答を得ることができた。

満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか」「職員の接遇・態度は適切か」「職員は話し相手や、相談相手になってくれるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」などがあげられる。

総合的な満足度では、36名が「大変満足、満足」、3名が「どちらともいえない」、1名が「不満、大変不満」と回答している。また、「友達も来るし遊べるから、学童クラブの生活はとても楽しいです」「毎日楽しく通っています」「おもちゃや本を増やしてほしい」「おやつもおいしいし先生も優しいから楽しいです」「子どもの人数が多いので狭く感じます」などのコメントがあがっている。

## 利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	30	6	2	2
30名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「とっても楽しいです」「一輪車が楽しいです」「一年生からいるので、遊びきってしまいました」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	30	7	0	3
30名が「はい」、7名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「ケガをした時などすぐに話を聞いてくれます」「いつも先生がいるから元氣になれます」「優しい」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	25	9	3	3
25名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 また、「自分では選ばないおやつも、学童だと楽しく食べられます」「お菓子以外にも果物やパンも出るのが好きです」「自分の好きなおやつを覚えてくれました」「話してはいけないから何とも言えません」などのコメントがあがっている。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	16	10	1	13
16名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「意見を言ったことはありません」「楽しんでいる様子を汲み取ってくれます」「もう少し話を聞いてほしい」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	34	2	1	3
34名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「理解できるように寄り添ってくれます」「いつも帰りの会で、遊びのルールについて話しています」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	17	12	7	4
17名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、7名が「いいえ」と回答している。 また、「本が散らかっていることが多いけど、自分は片付けてます」「片付けをさぼる人もいます」「やり残しがたくさんあります」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	31	5	2	2
31名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「みんな優しいです」「もう少し優しい話し方で接してほしい」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	34	4	0	2
34名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「すぐ助けてくれます」「人によろと思います」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	7	1	5
27名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「話を聞いてはくれるけど、仲裁などの対応に不満に思うこともあります」「すぐそばにいないと助けられません」「トラブルが起きたら気づいてほしい」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	30	3	2	5
30名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「話を聞いたりアドバイスしてくれました」「とても大切にしてくれます」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	21	7	0	12
21名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、12名が「無回答・非該当」と回答している。 また、「内緒の話はありません」「何かあれば守ってくれると思います」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	24	8	1	7
24名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「気持ちを伝えられる先生は限られているので、伝えられないこともあります」「もう少し対応してほしい」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	13	3	10	14
13名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、10名が「いいえ」、14名が「無回答・非該当」と回答している。 また、「先生たちに相談すると安心します」「伝えられたことはありません」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
カテゴリ1の講評			
<p>法人の基本理念や児童部門の基本方針を理解する機会を複数設けている</p> <p>法人の単年度事業計画では、児童部門の基本方針や育成目標、運営の方向性を詳細に示している。この計画は各施設に配布されるとともに、理念については事業所マニュアルにも掲載し、職員が常に意識できるよう工夫している。また、新任職員には採用時の研修で理念や基本方針を学ぶ機会を設け、さらに年に2回の全体会議を通じて、その理解を深め、意識を共有している。施設内では、育成室に基本方針を掲示し、これを基に毎月の目標を設定。子どもたちにも分かりやすく伝えながら、日々の活動の指針としている。</p> <p>各会議体を設け、決定事項等の周知の流れを整理して、共通認識を進めている</p> <p>法人では、「安全・安心な学童クラブ運営」を重点事項として掲げ、リスクマネジメントへの取り組みと、子どもの権利擁護に向けた方針を定めている。これを実現するため、法人主導のもと定期的に施設長会議を開催し、計画の進捗状況を確認するとともに、各施設が抱える課題の解決に向けた議論を行っている。また、各施設の職員会議で挙がった意見や提案は、施設長会議において検討され、現場の状況理解を深めながら、共通の対策を講じることで、サービスの標準化や安全対策の向上につなげている。</p> <p>職員全体で集まる機会を設け、円滑な事業運営に向けて取り組んでいる</p> <p>学童クラブ全体会は、全正規職員を対象とし、各施設の職員が顔を合わせる場として開催されている。この会では、年度の業務における重点項目を共有するとともに、共通認識を深め、職員間のコミュニケーションを促進することで、協力関係の構築を目指している。また、年度の中頃には2回目の全体会を実施し、遊びをテーマに据えた交流の場を設けている。この会では、職員同士がチームを組み、交流試合などを通じて親睦を深めるとともに、子どもへの遊びの指導力やコミュニケーション能力の向上を図っている。</p>			

2			カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行					
サブカテゴリー1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している				サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
				6/6	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している				評点(000000)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		○非該当	
●あり ○なし		2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		○非該当	
●あり ○なし		3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		○非該当	
●あり ○なし		4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		○非該当	
●あり ○なし		5. 事業所の経営状況を把握・検討している		○非該当	
●あり ○なし		6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		○非該当	
サブカテゴリー2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる				サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
				5/5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している				評点(000)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし		2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし		3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		○非該当	
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる				評点(00)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		○非該当	
●あり ○なし		2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当	
カテゴリー2の講評					
<p>子どもや保護者、地域のニーズを常に把握した方針の決定をしている</p> <p>定期的な利用者アンケートを実施し、その結果を分析することで、子どもや保護者のニーズを的確に把握している。特に、学童クラブの利用ニーズが高まる中で、保育園や幼稚園との連携を強化し、途切れのない子育て支援の実現を目指している。また、市の事業者連絡会や学童クラブあり方検討委員会への参加を通じて、国・都・市の児童健全育成の方向性を踏まえながら、法人としての方針を定めている。さらに、この法人の方針に基づき、放課後児童部門の中期経営計画を策定し、職員全体で各業務を検討しながら、計画の達成に向けた取り組みを進めている。</p> <p>中期計画から各事業所の事業計画の重点項目が設定されている</p> <p>法人の中期経営計画では、「各施設における子どものケガの発生を最小限に抑え、安全で安心な管理運営に努める」ことを重要なテーマとして掲げている。これを受けて、単年度事業計画の学童クラブ全体の重点事項として、「安全・安心な学童クラブ運営」「施設間の連携」「中期経営計画の取り組み推進」を定め、具体的な行動計画を示している。また、事業所の重点事項として、児童館内の学童クラブ機能を活かし、子どものニーズに応じた豊かな遊びや学びの場の提供と、地域に開かれた子どもの居場所として異年齢間の関わりを増やす事としている。</p> <p>法人の計画が職員に深く認知されており、各事業への理解が十分に進んでいる</p> <p>今回実施した職員自己評価の結果から、法人の中期経営計画や事業所の単年度計画に対する職員の理解度が深いことが明らかになった。これは、学童クラブ全体において、放課後児童部門の方針や事業所の重点事項を定期的に周知・確認していることが要因と考えられる。一方で、経営層は有期契約職員やパートタイマー職員に対しても、事業所における中期経営計画の取り組みについて理解を深めてもらいたいと考えている。今後はこれらの方針を統一的に周知する機会を設け、職員全体で共通認識を持ち、目標達成に向けて取り組んでいく方針である。</p>					

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

日常的に子どもや保護者の意見や要望を聞き取り、苦情に至らない対応を心掛けている

経営層は、年2回の苦情解決第三者委員会議において、法人内の各事業に寄せられた苦情の内容、解決までの経緯、改善策を報告し、職員全体に周知を行っている。これまで放課後児童部門における苦情の実績はないが、他部門での事例を通じて、解決までの経緯を理解し、事前の防止策を講じることは、質の高いサービス提供において重要な取り組みと位置付けている。また、苦情の対象は子どもや保護者に限らず、地域からの意見も想定し、市の担当課と情報共有や解決に向けた取り組みを確認している。

定期的な権利擁護に向けた意識付けの取り組みが継続的に行われている

毎年12月の人権週間に合わせて、法人独自に作成した「子どもの人権擁護のためのセルフチェックシート」を各学童クラブ職員全員に実施し、その結果を統計として取りまとめている。このチェックシートは、日常業務や特定の場面での職員の行動を問う内容となっている。その結果は、各施設の会議や学童クラブ全体会において報告され、権利擁護意識の向上や啓発に活用されている。さらに、市の担当課からは、都や市で実施される権利擁護に関する研修の情報が提供されており、放課後児童部門からの指示や職員の希望に応じて、受講が進められている。

地域社会とのつながりを子どもと一緒に経験し、未来の地域社会の形成に寄与している

法人は、市内に7つの学童クラブを運営している強みを活かし、各地域の特性を深く理解しながら連携体制の強化に努めている。特に、児童館併設という特性を活かし、子育て広場の利用者に向けて学童クラブの制度や取り組みを知ってもらうなど、地域住民への情報提供を積極的に行っている。また、多くの利用客が時間帯に応じて施設内の設備を多用途に利用できるよう、部屋の使用用途を明確に設定し、整理整頓を行った結果、学童クラブの活動場所が増え、利用者全体へのサービス提供能力が向上している。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>市内の感染状況を十分に把握した上での、各施設の対策と注意喚起を行っている</p> <p>法人の事業計画において、「安全・安心な学童クラブ運営」を目標として掲げ、具体的な取り組みとして事故・ケガの防止、感染症予防対策、および避難訓練の実施を定めている。事故防止については、各学童クラブで発生したインシデントリポートを集約し、場所や時間帯などを分析。これにより、活動時の場所の設定や見守り体制の見直しなど、改善策に反映させている。また、市内の感染状況を常に把握し、流行期には注意喚起を各施設に連絡し、事前に対策を行うことで感染症の予防に努めている。</p> <p>施設の立地に応じた災害時の計画と体制が整備されている</p> <p>子どもの支援時間に応じた学校との災害時の連携体制を図るため、協定が結ばれている。年間で避難訓練を6回実施し、加えて業務アプリを活用したテストメール配信や災害伝言ダイヤルの使用訓練を毎月行っている。また、建物内の放課後児童教室との連携を強化し、さまざまな災害訓練を共同で実施している。さらに、事業継続計画(BCP)における職員の役割について、児童館全体としてどのように役割設定をするかや、訓練方法についてより検討を図って行く必要性を感じている。</p> <p>電子データの安全管理について、今後は更に取り組んでいきたいとしている</p> <p>市の指導のもと、個人情報の取り扱いや管理方法が徹底されており、定期的な実地検査を受けて運用状況の確認が行われている。法人の規定に基づき、電子データや記録媒体の管理も厳密に行われている。例えば、子どもの写真データはオフラインPCで取り扱い、配信用データに加工する手順が定められており、安全な管理体制が整備されている。また、アプリを通じた情報発信において、二次転用等のネットリテラシー対策に関して、市全体での取り組みが進められることを期待している。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に  
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

適切な職員配置における支援体制を確立し、各施設の特色を生かした活動をしている

市内の学童クラブ利用のニーズ増加を受け、法人では正規職員の採用を積極的に行っており、これは学童クラブや児童館、保育園などの児童部門の拡充に向けて、次世代の事業の担い手を育成することを目的としている。人員配置は支援単位に応じて適切に行われ、その活動内容に関しては館長と職員が協力し、方針を定めている。現在は支援が必要な子どもが増加傾向にあり、加配職員も増員していることから、障害児支援について専門性を高める取り組みを行っていきたい意向である。

法人の方針や職員の意向を踏まえた研修受講を進めている

法人では、正規職員の勤続年数に応じた段階的な研修受講を計画的に進めている。子どもの育成支援に必要な研修については、正規・非常勤を問わず、職員会議などで共に実施し、知識を深めている。これまでの所内研修では、事故防止や緊急時対応を重視し、積極的に実施してきた。さらに、市の児童館職員向けの研修や社会福祉協議会のオンライン研修を活用し、子どもの育成支援に加えて、地域住民との子育て支援についても見識を広げている。

職員間の交流を通して、組織力の強化やサービスの標準化を図っている

年2回行われる学童クラブ全体会では、1回目に事業の目標・方針の確認や研修、重点事項の確認を行い、職員間での認識を統一している。2回目は、各施設の職員間のコミュニケーションの活性化や、育成支援の技術を共有し、楽しみながら行える場として開催している。この取り組みを通して、法人の運営する学童クラブでの業務やサービスの標準化を図り、異動等があった際にも迅速に組織形成が行える体制を整えている。これらの活動を継続的に実施することで、法人の児童部門が共通認識を持って事業を運営できるよう努めている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

法人の中期計画にある4つの柱の実現にむけた事業評価を適正に行うこと。

【取り組み】

外部コンサルタントを活用しながら、四半期ごとの見直しの際に進捗管理を行った。

【取り組みの結果】

A・B・Cの三段階評価により、進捗状況を明確にし、適正な事業評価と課題の抽出を行うことが出来た。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

学童クラブの委託を受けた法人は、市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。その柱は、地域に根ざしたサービスの質の向上、人材の確保・育成・定着、業務の効率化・運営の標準化、新拠点の業務委託を円滑に行うという4つの目標で構成されている。各項目については、外部コンサルタントの助言を受けて、具体策を設定し、学童クラブが設置されている各地域に応じた単年度計画を作成している。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、必要に応じて修正を加えている。各目標に対しては、年次評価を3段階で定め、評価基準はA(計画以上に進捗が確認できた)、B(概ね計画通り)、C(進捗が遅れが見られ、改善が必要)となっており、次年度に向けた課題抽出を行っている。これらのプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、実行に移されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

安全・安心な学童クラブを実現するための事故防止対策を徹底する。

【取り組み】

各学童クラブのヒヤリハット・事故報告の内容を分析し、各種マニュアルの改訂とその内容の周知を行う。

【取り組みの結果】

児童引き渡しの手順の整理がされたことによる適正な子どもの引き渡し改善された事、受診につながる事故等の各施設の目標値を設定し、計7施設中6施設が目標を達成した。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業計画において、各施設の重点事項を明確にし、法人の目標である「安全・安心な学童クラブ」の実現に向けて取り組んでいる。特に、受診につながる事故防止と、児童引き渡し時の間違いをなくすことを目標に掲げている。事故防止に関しては、事故やヒヤリハット報告の内容を精査・分析し、その対策を全施設に周知した。また、適正な児童の引き渡しに関しては、使用アプリの使い方や手順を整理し、マニュアルの改訂と職員への周知を行った。この取り組みによって、事故報告や受診に繋がる事故発生件数は減少した。この取り組みは次年度も継続し、発生要因やその対応をさらに精査し、より安全な環境の提供と職員の育成支援に反映させていくこととしている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>学童クラブ入会申請の広報は、市の広報やホームページに掲載されWeb申請も可能</p> <p>子どもや保護者が入手できる媒体で情報を提供している。おたより、入会のしおり、保護者会資料などを通じて情報提供を行っている。学童クラブ入会申請の広報は、市のホームページでわかりやすく掲載されており、申請に必要な書類のダウンロードやWeb申請も可能になっている。在籍児童には、おたよりにて入会申請の案内を提供し期間限定で在籍学童クラブでの受付も行っている。所管課が、市内の保育園の5歳児クラスには、学童クラブの入会案内を配布している。</p> <p>保護者会では、写真やスライドショーで子どもたちの様子を提供している</p> <p>学童クラブでは、子どもや保護者の特性を考慮し、わかりやすい表記や内容でサービスの情報を提供している。保護者会では、写真で子どもたちの様子をスライドショーで映し出している。保護者に視覚的に伝えることで、学童クラブでの過ごし方がより具体的に伝わり、保護者の理解が深まっている。おたよりは、法人本部と市の所管課に提出している。児童館運営会議においても、資料としておたよりを配布している。また、在籍児童の小学校、特別支援学校の校長、副校長、各担任に届け学童クラブの子どもたちの様子を伝えている。</p> <p>子どもや保護者の問い合わせや見学希望に対して、柔軟な対応を行っている</p> <p>子どもや保護者の問い合わせや見学希望に対して、個別の状況に応じた柔軟な対応を行っている。事前予約なしでの施設見学も対応し、おやつ時間帯や17時以降の子どもたちの様子など、夕方に子どもと一緒に見学することができる。個別面談希望の場合は別日程で調整している。毎年、近隣保育園の5歳児が遠足で施設を見学し、児童館の室内も見学できるようにしている。定期的に行われる児童館の乳幼児施設連絡会で学童クラブの紹介を行い、地域の方々に情報提供を行っており、地域との連携が深まり、サービスの質が向上につなげている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入会説明会では、子どもや保護者の状況に応じた丁寧な説明と対応が行われている</p> <p>入会が決定後、各施設で入会説明会を実施しており、保護者向けに3月の始めの土曜日の午前中もしくは午後開催している。出席できない保護者には、平日の午前中や夕方など別日で個別対応を行っている。説明会では「学童クラブ入会のしおり」を作成し、学童クラブでの生活の仕方やルール等を説明している。児童館併設の学童クラブの特色も説明もしている。質問や相談の時間を設け、説明会終了後も個別対応を行っている。子どもや保護者の状況に応じた丁寧な説明と対応が行われて不安を軽減できるようにしている。</p> <p>新しい環境に馴染めるよう子どもの不安やストレスを軽減する工夫を行っている</p> <p>入会申請書類に基づき児童の特性を職員間で共有し、新しい環境に馴染めるよう配慮している。必要に応じて、保育園での様子を聞き取り子どもの不安やストレスを軽減する工夫もしている。初めて登室する児童の受け入れには、職員だけでなく、上級生が案内係になり、業務アプリの使い方のなどのお手伝いをしている。1年生が過ごしやすいプログラムも用意し、朝の会や帰りの会で生活の仕方や決まりをわかりやすく説明し事故やけがを防ぐための見守りも徹底している。職員は、気づいたことをミーティングで報告・記録し、全職員で情報共有を行っている。</p> <p>障害のある子どもの、受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている</p> <p>障害のある子どもの、受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている。配慮が必要な子どもや気になる子どもについては、保護者との面談を行ない、利用開始日から適切な支援ができるよう準備している。好きな遊びや得意なこと、苦手なことなど事前に把握するようにし、全職員共有することで、できるだけ子どもが混乱しないように配慮している。また、併設している児童館や「あそびバ」の案内をしている。子どもが施設利用で不安にならないように、学童クラブでの対応の仕方を各施設の職員と情報共有している。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>年間目標や年間事業計画については、入会説明会や保護者会で伝えている</p> <p>年間目標及び年間事業計画については、職員全体で振り返りを行い、学校や地域から得た情報を基に、児童館事業を考慮しながら計画の作成や見直しを行っている。年間目標や年間事業計画については、保護者に理解を得られるように、入会説明会や保護者会で伝えている。年間目標については、子どもの状況を見ながら、その都度見直しをしている。障害をもつ子どもに対しては、毎月育成目標を設定している。育成目標の達成度等の振り返りは、毎月、全体ミーティングで、話し合い次の目標を決めており、保護者にも目標を伝え情報共有している。</p> <p>毎日の育成活動を日誌に記録し、行事や活動の様子、遊びの状況を詳細に記録している</p> <p>毎日の育成活動を日誌に記録し、行事や活動の様子、遊びの状況を詳細に記録している。月末には「育成状況報告書」として月ごとのまとめを作成し、所管課に提出している。障害がある子どもの日誌には、具体的な関わり方を詳細に記録し、月ごとに子どもの様子を振り返り、毎月の報告書としてまとめている。気になる状況の子どもについては、ノートに記録を取り、職員間で情報共有し、ケース会議で活用している。発達センターや巡回指導の先生とも情報を共有し、より良い支援を目指している。</p> <p>全職員で毎朝ミーティングを行い、子どもの様子や保護者からの連絡を共有している</p> <p>毎朝、「朝のミーティング」を行い、児童館職員も含めて前日の子どもの様子や保護者からの連絡内容を共有している。その後、担当ごとに詳細なミーティングを行い、シートに記載している。午後から出勤する職員には、朝からの正規職員が確認のフォローを行っている。子どもや保護者の情報に変化があった場合は、日付を記載して情報が記載されている書類等を更新しており、情報の正確性とタイムリーな共有を確保している。子どもの状況を的確に把握し、適切な支援を提供することができている。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どもに関する情報を外部とやりとりする際には、必ず保護者の同意を得ている</p> <p>子どもに関する情報を外部とやりとりする際には、必ず保護者の同意を得るようにしている。入会説明会では、学校と連携して子どもの様子を話し合うことや、学童クラブでのケガやトラブルについて学校に情報を伝えることを保護者に説明している。保護者の悩みを適切な関係機関に相談する際も同様である。法人の広報誌や児童館だよりの写真掲載についても、その都度保護者の確認を行っており、保護者が行事などで、撮影した写真や動画は、個人でインターネット上に投稿しないように保護者をお願いしている。子どものプライバシーが守られている。</p> <p>子ども一人ひとりを尊重し、子どものプライバシーに配慮している</p> <p>日常の援助においては、子ども一人ひとりを尊重し、子どものプライバシーに配慮している。着替えが必要な時は個室で行い、排泄の失敗やケガの処置もプライバシーを保ちながら対応している。また、聞かれたくない話は個室で話せるよう配慮し、保護者の相談にも寄り添っている。羞恥心が強く、人前で話すことや友達づくりが苦手な子どもについては、職員間で情報を共有し、個別に支援している。子どもたちの個性を尊重し、保護者の価値観も考慮することで、安心して過ごせる環境が整えられている。</p> <p>子どもの権利が守られ、安心して過ごせる環境が整えられている</p> <p>子どもの様子がいつもと違う場合、職員間で情報を共有し、注視している。子どもの話を受け止め、信頼関係を築くことを重視し、子どもが、もやもやした気持ちのまま、帰宅しないよう帰宅前には、声をかけて気持ちを整理するよう努めている。トラブルが発生した際は、公平な立場で子どもから話を丁寧に聞き、問題解決を図っている。保護者にもできるだけ状況を当日報告している。職員間での朝のミーティング等で報告し、情報共有を行っている。子どもの権利が守られ、安心して過ごせる環境が整えられている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>マニュアルに従い、全職員が同じ基準で業務に取り組んでいる。</p> <p>学童クラブのマニュアルには、日常の育成活動に必要な事項が詳細に記載されており、日常の安全対策や災害時の緊急対応、職員の役割、職場倫理、書類の記入方法、おやつ提供、登降室の安全対策、保護者対応などが含まれている。これらの内容は職員全員が参照できるように事務室のキャビネットに保管され、共通の意識を持つことができるようにしている。年度はじめや新たに配属された職員に対しては、マニュアルを用いた業務説明を行い、全職員が同じ基準で業務を遂行できるよう取り組んでいる。</p> <p>マニュアルの適切性を評価し見直すことで、サービスの質を維持・向上させている</p> <p>提供するサービスが基本事項や手順に沿っているかどうか、定期的に点検・見直しを行っている。職員で読み合わせを行うなど、自治体の方針を職員が理解し、その考え方に基づいたサービスを提供している。年度末にはマニュアルの確認・見直しを行っている。掃除や戸締りなどの具体的な作業の点検表は、不具合が生じた場合すぐに確認・手順等の見直しを行い更新している。課題やクレームが発生した際には、マニュアルを確認し、手順を再確認することで、マニュアルの適切性を評価する機会としている。見直すことで、サービスの質を維持・向上させている</p> <p>サービスの基本事項や手順の見直しには、職員や子ども・保護者の意見を反映している</p> <p>サービスの基本事項や手順の見直しには、職員や子ども・保護者の意見や提案が反映されている。日々のヒヤリハットの記録を基に手順の確認や見直しが行われ、施設長会議でまとめられ全職員に報告されている。保護者アンケートの結果をサービスに反映し、行事ごとに保護者や子どもの感想・意見を聞く機会を設けている。子どものリーダー会議やお帰りの会での意見も職員会議で取り上げ、サービス向上に繋げており、質の高いサービスの提供が実現をめざしている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4																
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況																
		28 / 28																
1	<p>評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当		
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																
評価項目1の講評																		
<p>親子面談や提出書類、関係機関・職員との情報共有で子どもの状況を把握している</p> <p>保護者からの提出書類や、必要に応じて保育園等への確認、親子面談等を通じて、子ども一人ひとりの状況を把握するよう努めている。学校とは4月に一年生の担任と顔合わせをすることになっている。定期的な情報交換会は設けていないが、情報共有は適宜行っている。近隣保育園とは幼児施設連絡会で顔を合わせる際に、直接報告や確認をしている。保護者との個人面談は希望者に対して実施しており、個人面談シートを使用して、内容の聞き取りと記録を行っている。保護者と職員との情報共有に加え、職員同士でも情報を共有し、育成に役立っている。</p> <p>トラブル発生時は、落ち着いた環境で個別に話を聞き取り、職員間で情報を共有している</p> <p>子ども同士のトラブルが発生した際は、事務室など落ち着いて話ができる場所で聞き取りをしている。児童館併設のため部屋が多くあり、その時の状況で児童が落ち着ける部屋を職員は選択している。話を聞く際には、記録シートを使用し、メモを取っている。当事者の子どもを別々にして、一人ひとりに話を聞き、次に周囲の子どもやその場にいた職員にも確認して話をすり合わせている。何かあった時には大人に相談すること、手を出してはいけないことを日々子どもたちに伝えている。時には帰りの会で事例を伝えて、対応方法を考える機会も設定している。</p> <p>職員が障害児支援や特性理解を進め、子どもたちの良好な関係作りを援助している</p> <p>職員は、障害のある子どもの近くで見守りを行い、他児と円滑な関係を築けるよう援助している。いじめにつながりそうな状況では、職員が子どもの間に入って対応するようにしている。また、場合により、子どもの特性について保護者の了承を得て周囲の子に伝え、理解を促すこともある。子どもたちは良い距離感で一緒に遊んでいる。一方、言葉が伝わらない子の気持ちを、職員が察することが難しい場合もある。知識やスキルを高めて一層の支援をおこなうためには、直接対応する職員が研修等で学ぶことができる環境を整えることが望ましいと考えられる。</p>																		
2	<p>評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当					
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当																
評価項目2の講評																		
<p>児童館を利用して、豊富な選択肢から子どもが自由に遊べる環境を提供している</p> <p>学童クラブは児童館に併設されており、児童館を利用した生活や遊びが展開されている。児童館には遊戯室・集会室・多目的室・図書室と館庭があり、児童館事業で使用していない時間帯には、子どもたちはこれらの場所を自由に使って遊ぶことができる。遊具も豊富に揃えられており、事務室で貸し出しされている。事前に申し込みをすれば児童館の事業にも参加できる。子どもには多くの選択肢があり、児童館に遊びに来た学童クラブ以外の友達とも交流することができる。職員は子どもと遊んだり見守りをしており、子どもが安心して遊べる環境を提供している。</p> <p>学童クラブの活動を工夫し、リーダーシップや所属意識を高める機会を提供している</p> <p>学童クラブでは、在籍人数が多いため子どものストレスを考慮して、全員でおこなう活動を減らし、子どもがまとまりやすい学年別の班にしている。職員は子どもとの会話から遊具の希望を聞き取り、購入の参考にしている。図書館からの本の借り入れでも、リクエストノートに記入された希望を取り入れている。当番や帰りの会の進行は3年生が担い、リーダーシップを養う機会にしている。誕生会やお楽しみ会は、大人数で楽しめる内容となるよう工夫している。学童クラブでは、子どもたちが所属意識を持ち、生活に主体的に関われる機会を提供している。</p> <p>学童クラブ生活のガイダンスをおこない、基本的な生活習慣の習得に取り組んでいる</p> <p>入会当初に「1年生ツアー」を実施して、学童クラブの生活についてガイダンスを行い、児童館事業の申し込みや遊具の借用・返却を自分で行えるよう指導している。ホワイトボードに予定を表示し、時計を見て行動できるよう促している。登館時には「お帰り」「ただいま」の挨拶を職員と子どもの間で交わし、ランドセルや荷物は自分のロッカーに整理して入れるよう声掛けを行っている。また、月間育成テーマに「手洗いを徹底しよう」などの基本的な生活習慣に関する内容を盛り込み、おたよりで家庭にも知らせることで、子どもが習得できるよう援助している。</p>																		

3	<b>評価項目3</b> 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている <span style="float: right;">○非該当</span>
評価項目3の講評	
<p><b>行事前に内容を知らせ、体験させて興味を持たせ、参加や意欲を高める工夫をしている</b></p> <p>児童館の行事に積極的に参加できるように、事前に行事の内容を知らせたり、体験させて興味を持たせている。「木ゴマで遊ぼう」の行事では、その日の前後で木ゴマで遊べる日を設け、遊び方を子どもが習得できるようにして、行事参加や遊びの継続を促している。児童館まつりの前には、当日の飾り物の制作に取り組み、まつりへの関心を高め雰囲気盛り上げている。学童クラブの行事においては、ドッジビー大会前に、近隣学童クラブと練習会をして、試合への意欲を高めたり、前ぶれもなく工作を始め、サプライズ効果で興味を持たせるような工夫をしている。</p> <p><b>子どもが活動を企画・運営し、行事や大会に参加する機会が設けられている</b></p> <p>3年生以上の子どもたちは、希望すれば児童館の子どもスタッフ組織「〇〇クラブ」に加入し、児童館の行事の企画や運営に携わる機会がある。「〇〇クラブ」では年間を通して、「新1年生の集い」「夏まつり」など、さまざまな行事の企画について意見を出し合い、司会、ポスター作成等、役割を分担している。秋に行われる児童館まつりでは、学童クラブは「ゲーム屋さん」を出店し、内容の検討や準備、当日の係などに子どもたちが参加している。このほか、市が主催する学童クラブドッジビー大会に向けて、チームで作戦を立てて練習し、試合に臨んでいる。</p> <p><b>行事を保護者に周知し、「児童館まつり」では、連携して意欲的に取り組んでいる</b></p> <p>入会説明会や保護者会では、年間の行事を映像などで視覚的にわかりやすく紹介し、保護者の理解が得られるようにしている。行事のお知らせや行事参加の可否を含めたアンケートは、業務アプリで保護者に周知している。児童館まつりでは、学童クラブの子どもたちがゲームコーナーを担当しているが、学童クラブの父母会も実行委員会に参加して企画運営に関わっており、保護者の理解や協力のもと実施されている。まつり当日は多くの保護者が参加しており、子どもの習い事の調整などでも協力を得られ、子どもたちは意欲的に取り組むことができている。</p>	
4	<b>評価項目4</b> 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)・非該当1</p>
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している <span style="float: right;">○非該当</span>
○あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している <span style="float: right;">●非該当</span>
評価項目4の講評	
<p><b>登館案内や見送り、遊具の工夫で、子どもが楽しく安心して過ごせる環境を提供している</b></p> <p>4月当初は、朝登館してきた子どもを学童クラブ室まで案内して、新しい場所での緊張を和らげるようにしている。17時に集団で帰る子どもたちについては、職員が見送り、安全に不安なく帰宅できるよう促している。1年生については年度当初、学校からの登館路を職員が学童クラブまで引率して登館指導をしている。また、学童クラブの遊具については、けん玉や一輪車など、日々継続して遊ぶことで技術が向上し、達成感を味わえるものや、ブロックなど子どもに人気のあるものを数多く用意して、子どもたちが楽しく遊び、通い続けられるよう工夫している。</p> <p><b>子どもが予定や帰り方を自分で確認することで、主体的に過ごせるようにしている</b></p> <p>学童クラブ室内のホワイトボードにはその日の予定が書かれている。2部制でおこなっているおやつや、全員が集まる帰りの会の時間、行事予定等が明記され、子どもが見ればわかるようになっている。その日の子どもの帰り方や時間、方面については、別に表示スペースが設けられており、子どもは登館したら自分の名前プレートをそこに付けることになっている。それを職員が事前連絡の内容と照らし合わせて確認するという方法が取られている。このような仕組みは、子どもたちの自立心や責任感を育み、子どもの主体性を高める取り組みになっている。</p> <p><b>児童館機能を大いに活用して、子どもが安心して活動できる環境を提供している</b></p> <p>子どもは児童館の各部屋を活用している。遊戯室ではドッジビー、ボールなど運動遊びをおこなっている。必要に応じて仕切りが設けられ、子ども同士がぶつからないよう安全対策もとられている。和室の図書室は、落ち着いて静かに読書できる環境となっている。卓球ができる部屋もあり、目的や状況に応じて、子どもたちは自由に児童館内の部屋や遊具を使い分けている。学童クラブ室では、おやつ、掃除、帰りの会が行われ、他にも専用で使用できる部屋がある。学童クラブは、児童館機能を大いに活用して、子どもが安心して活動できる環境を提供している。</p>	

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校と学童クラブが保護者承諾のもと情報共有し、交流と連携を維持・強化している</p> <p>必要に応じて、子どもの様子の確認や担任と学童クラブ職員の顔合わせ等をおこなっている。学校との情報共有に関しては事前に保護者の承諾を得てからおこなっている。学校へは、毎月おたよりを配布して学童クラブの様子を伝えている。学校からのおたより等ももらい、学校の行事予定を踏まえた育成ができるよう努めている。学校には、月に数回程度出向いて、日常的な事柄も含めた情報交換をしている。何かあればすぐに連携が取れるような関係はできているが、引き続き関係維持・強化に努めていきたいとしている。</p> <p>学校と連携し、不登校児の対応を検討し、保護者の希望を尊重した支援を行っている</p> <p>不登校など課題を抱える子どもについては、学校と情報を共有し対応を検討している。対応方法は、ケースにより異なるが、学校での状況を踏まえて、学童クラブでの対応を学校と打ち合わせることもしている。保護者からは、個別に話を聞き、保護者や子どもの希望を確認しながら、希望を尊重した対応をおこなうようにしている。学校で友達との関係に課題があったケースでは、学童クラブでもその友達と距離を取るよう働きかけをして、学校と対応方法を合わせている。日ごろから学校と信頼関係を築くよう心掛け、連携して援助できるよう努めている。</p> <p>障害児の育成は、関係機関や学校と連携し、学童クラブでの対応方法を検討している</p> <p>障害のある子どもについては、保護者の了解を得て、入会前に保育園等を見学し、子どもの様子を把握するとともに、担当の職員から話を聞き、育成における注意点等を確認している。特別支援学校で年2回行われる関係者の集まりには、職員が参加するようにしている。学校公開日には参観し子どもの様子を見学している。特別支援学校の担任が、夏休み中に学童クラブでの様子を見に来てくれることがある。その際に職員へのアドバイスを受けたり、対応方法の統一を図るなどしている。子ども発達センターや関係機関とも必要に応じて連携できる状態である。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが楽しく、落ち着いておやつを取れるようなメニューや雰囲気作りに配慮している</p> <p>在籍人数が多く、学童クラブ室で全員が一緒に食することが難しい状況である。そのため、出席人数が多い日には、おやつを2部制にし、1回目を1年生、2回目を2年生以上にすることで、時間を分けて提供している。おやつは毎日違うメニューで提供できるよう心掛け、子どもが楽しめるようにしている。普段は班ごとに机を囲んで食べることが多いが、時には「カフェ方式」を取り入れ、時間を設定してその時間内であれば、好きな友達と一緒に食べられるという日を設けている。新鮮な気持ちでおやつを楽しめることができるよう雰囲気づくりに配慮している。</p> <p>おやつは200キロカロリーを目安に種類や時間を工夫し、誕生会は特別感を出している</p> <p>おやつは200キロカロリーを目安にして、バームクーヘン・クッキー・せんべいなど3種類ほどを組み合わせて提供している。時間は2部制にすることが多く、1回目を15時から、2回目を15時45分から行っている。6時間授業の子どもたちは、2回目のおやつにも間に合わないことがある。行事などの都合で、おやつを長く取れない場合には、簡単に食べられるものを提供することもある。毎月実施している誕生会のおやつは、いつもと違う雰囲気や普段食べられない特別感のある物にして、子どもが喜び、楽しく食べられる工夫をしている。</p> <p>アレルギー対応として、家庭から持ち込んだおやつを提供し、記録を残している</p> <p>食物アレルギーのある子どもについては、入会前に保護者と面談を行い、アレルギーの内容や対応方法を確認している。おやつは、家庭から持ち込みをすることで保護者の承諾を得ており、預かったおやつを子ども別に保管して、その中から毎日提供している。アレルギーのある子どもは職員の近くのテーブルを一人で使用し、記名されたコップ、専用の皿を使用している。ごみは、先に受け取り、他の子どもの食べ残し等に触れたり吸い込んだりしないよう配慮している。提供したおやつの内容は必ず記録し、空き袋は一日保管している。</p>		

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日々の安全対策や手洗い指導で、子どものけがが防止と健康意識向上に努めている</p> <p>毎日、登館時や外遊びの後に手洗いを促す声掛けをしている。具合が悪いと感じたら大人に言うよう伝えている。遊びでは、バスケットボールは軽量のボールを、ドッチボールではやわらかいボールを使用してけがの防止を図っている。大きな動きの遊びをする時は、時間や空間を区切ってけがが発生しにくいような配慮をしている。17時以降の帰りの道のパトロールでは、強化月間を設け、危険な場所を写真に撮り、子どもと一緒に確認して、子どもの意識向上やけがの防止に役立っている。夏休み中には、市の健康推進課主催の子ども向け健康講座を実施している。</p> <p>事故やアレルギー対応はマニュアルに基づき対応し、病院とホットライン連携もしている</p> <p>事故マニュアルや記録シートが整備されており、それに沿った対応をしていることで、見落としなく対応できるようになっている。頭部や顔のけがを含め、受診等の判断が難しい場合には、「#7119」に電話相談して、内容を記録シートに記入している。食物アレルギーに関しては、近隣の大学病院と市が連携しており、ホットラインでつながっている。アレルギー研修やエビペンの使用実地訓練を行うなど万一来臨に備えている。また、特別に飲料を飲む必要のある子どもが在籍しているため、保護者からの依頼内容に沿って、飲料を作り提供する対応を取っている。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>出欠確認や育成時間申請届の変更確認も業務アプリや電話で行っている</p> <p>学童クラブ申請時に提出される申請書等の書類を活用し、各家庭の詳細な状況を把握している。育成開始時間やお迎えの時間、保護者の休務日の扱いなど、保護者の個々の状況に応じた支援を行っている。出欠確認や育成時間申請届の変更確認も業務アプリや電話で行い、出席予定の子どもが登室しない場合は、すぐに保護者や学校に連絡している。必要に応じて、子どもからも状況を聞き、安全確認を徹底している。保護者が安心して子育てに専念できる環境が整えられている。</p> <p>保護者会や親子交流会を通じて保護者同士が交流できる機会を設けている</p> <p>保護者会や親子交流会を通じて保護者同士が交流できる機会を設けている。保護者同士が顔見知りとなり、学童クラブ外でも助け合いや相談ができる環境を提供している。市内の学童クラブドッチビー大会や児童館サッカー大会の応援でも、異学年の保護者と交流することで、子どもの成長過程を見る機会も得られている。秋に開催される「児童館まつり」では、学童クラブ父母会がまつり実行委員会として協力し、10人ほどの父母がブースを担当して交流を深めており、保護者の不安が解消され、安心して子育てができる環境が整えられている。</p> <p>お迎え時や個人面談で、保護者と情報共有をしている</p> <p>学童クラブでは、毎月おたよりを発行し、子ども会議や行事への取り組みなど、子どもの実際の声や動きを掲載し写真なども入れ、わかりやすく様子を伝えている。お迎えに来た保護者とは、対面でその日の出来事を共有し、信頼関係を築いている。個人面談では、学童クラブ内での子どもの様子に加え、家庭や学校での様子、生活リズム、要望などを事前アンケートで把握し、短時間で密度の濃い面談や共通認識ができるようにしている。面談の記録を「個人面談シート」に記入しており保護者が安心して子育てに専念できる環境が整えられている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用して多様な体験や交流の機会を提供している</p> <p>学童クラブでは、地域資源を活用して多様な体験や交流の機会を提供している。児童館内の学童クラブの特色を生かし、児童館事業に積極的に参加している。学童クラブの子どもたちが多数参加するダンスサークルでは、近隣の都立高生がボランティアで指導し、高校を練習会場とすることで、異体験を楽しんでいる。サッカーやドッジビーの交流会では、近隣の学童クラブや「あそびバ」の子どもたちと試合をして交流を深めている。さらに、児童館まつりでは、子どもたちがブースを担当し、準備から参加して交流を深めている。</p> <p>子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している。</p> <p>学童クラブでは、行事に地域の人々と交流の機会を確保している。例えば、近隣の地域センターまつりでは、学童クラブの3、4年生が「けん玉コーナー」を担当し、地域の大人と交流している。また、「輪投げサークル」や「お手玉・あやとりサークル」の人々とも交流している。夏休みには、地域のスポーツ・レクリエーション講師が「ラダーゲッター」を指導し、子どもたちは楽しんでいる。今後、児童館とのコラボ事業を通じてさらに多様な体験を提供することが期待されており、地域との連携が深まり、子どもの生活の幅が広がっている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
タイトル①	中期経営計画の確実な目標達成に向けて取り組んでいる	
内容①	市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。外部コンサルタントの助言を受け、各地域に応じた単年度計画の作成と具体策の明確化を図り、確実な実行に向けて取り組んでいる。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、次年度に向けた課題抽出を実施している。このプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、確実な達成を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-1	子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している
タイトル②	親睦会を保護者会と同日に実施し、学童クラブでの子どもの生活を保護者が体験している	
内容②	子どもの遊びや生活の様子は、保護者会やおたよりで保護者に伝えているものの、保護者が直接見る機会はほとんどない。そこで、学童クラブでは、保護者会と同日に親睦会を実施し、保護者が子どもの遊びや生活の様子を直接体験できる機会を提供している。保護者は、児童館の各部屋で卓球や一輪車、ドッジビーなどを楽しみながら、他の保護者や職員と交流している。これにより、子どもの成長や日常生活を具体的に感じ取り、学童クラブへの理解を深めることができる。この取り組みで、学童クラブは育成の透明性を保ち、保護者との信頼関係を強化している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	対面での会話や電話対応を大切にされた接遇マナーを徹底している	
内容③	お迎えの際の会話や電話対応を大切に、職員が対応を行っている。連絡用アプリで伝えられない内容については、電話での対応を行い、一方的な会話にならないよう心がけている。職員全員がこの対応を実践できるように、日頃から意識して話すことが、訓練になることを先輩職員が伝えている。正確に伝えることで誤解を減らし、対応の時間を短縮している。相手を思いやる丁寧な態度を大切に、保護者との信頼関係を築くことを目指しており、保護者と職員の信頼関係が深まり、安心して子育てができる環境が整えられている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	より多くの地域住民が快適に利用できる施設として、整理整頓を行い、施設機能の強化を行っている
	内容	多くの地域住民が利用する児童館を快適に利用してもらうため、業務委託を受けた後、館内の部屋の使用用途や備品を見直し、環境整理を行った。これは、子育て広場や学童クラブなどが多用途かつ同時に使用することを考慮して実施したものである。その結果、子どもの活動場所が多岐にわたり、自身の興味に応じた選択が可能となるなど、子どもの自主性を伸ばす環境づくりにつながっている。現在も改修工事が進められており、今後より楽しい場所となるよう、計画的に環境整備を進める予定である。
2	タイトル	学童クラブでは、記録シートの使用、個別対応、周囲の確認により、子ども同士のトラブルの事実確認と解決に向けた手順が整備されている
	内容	学童クラブでは、トラブルの当事者である子どもから状況を聞き取る際、記録シートを使用して、「いつ」「どこで」といった基本的な情報を順番に確認し、正確に記録することで、事実の把握をしている。「どうして起きてしまったのか」「どうしたら良かったか」など子どもの意見を丁寧に確認して、子どもにトラブル解決に向けた自己反省を促している。周囲の子どもや職員にも確認し、話をすり合わせ、事実確認を確実にしている。これらの手順により、子どものトラブル解決を円滑に行い、子どもが自分の行動を冷静に振り返ることで成長を促している。
3	タイトル	児童館学童クラブの特色を生かし、自由度が高く、様々な経験ができる場となっている
	内容	児童館学童クラブは、広い建物と多くの遊べる部屋を持つため、子どもたちに高い自由度を提供している。自由時間には、好きな場所で好きな遊びを楽しむことができ、学童クラブ専用の遊具は部屋から持ち出さない規則がある。また、児童館の遊具を使用することで一般来館児とも交流が可能である。学童クラブの集団活動以外では、自由遊びや自分で申し込んだ児童館のサークルやイベントに参加している。異年齢の子どもや中高生との交流もあり、子どもたちは多様な体験を通じて成長し、充実した時間を過ごしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	将来的な職員の専門性やマネジメント力の向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい
	内容	法人が運営する学童クラブは市内に7か所あり、地域性と子どもの状況に応じた柔軟な運営が行われている。各学童クラブは主に法人本部の児童部門と館長を中心に方針が決定され、配置される職員による業務手順等は標準化されている。一方で、業務の負担状況には各施設間で差異が見られるため、今後は通常業務における役割や担当に明確な基準を設けることで、より働きやすい職場となることが期待される。また、職員のマネジメント力にも注視し、その育成方法についても検討されることに期待したい。
2	タイトル	子どもが毎日使用する育成室の環境を子ども目線で見直し、新しい設備の導入や掲示物の位置調整が求められる。
	内容	学童クラブでは、子どもたちへの情報提供に力を入れており、毎月のおたよりやお知らせ、ホワイトボードや壁に必要な掲示物を貼っている。1年生でも読めるようにフリガナをつけるなど工夫しているが、更なる改善点として、子どもが毎日使用する育成室の環境を子ども目線で見直し、新しい設備の導入や掲示物の位置調整が求められる。子どもたちが情報をより理解しやすくなり、学童クラブでの生活がより充実することが期待される。
3	タイトル	業務アプリ機能を十分活用し、学童クラブの運営の効率化や透明性を一層高め、保護者との信頼関係を強化することが期待されている
	内容	業務アプリの導入により、学童クラブでは子どもの入退室管理や出欠席の確認、おたより・お知らせの配信等が効率的に行われている。子どもの安全確保や迅速な情報共有が可能となり、保護者や学童クラブは利便性を感じている。また、保護者から連絡帳欄に記載があった場合は、必要に応じて返信している。保護者と職員のやりとりや子どもの様子・活動の記録、視覚的な伝達など業務アプリ機能の活用範囲は広い。業務アプリ機能を十分活用し、学童クラブの運営の効率化や透明性を一層高め、保護者との信頼関係を強化することが期待されている。